中国の「新質生産力」の強靭性と課題（要旨）

李 春霞（新潟県立大学）

「新質生産力」とは、「新たな質の生産力」を意味する。2023 年 9 月、習近平総書記が初めてこの言葉に言及した。新質生産力とは、従来型の経済成長方式から脱却し、イノベーションが主導的役割を果たすもので、ハイテク、高効率、高品質という特徴を持ち、新たな発展理念に合致した先進的な生産力を指す（「人民網」2024 年 3 月 8 日）。

中国政府は新質生産力を発展させるための主な取り組みとして、(1) 産業チェーン・サプライチェーンの高度化（アップグレード）、(2) 新興産業と未来産業の積極的な育成、(3) デジタルエコノミーのイノベーションおよび発展の推進、などを打ち出した。

中国は 2000 年代半ばから、従来の成長方式（要素投入型）からイノベーション型あるいは生産性向上型への転換を掲げてきた経緯があり、「新質生産力」はこうした従来政策をさらに進化させたものと考えられる。

近年、米中対立の継続に伴い、米国は中国に対するハイテク技術の輸出制限を強化している。これに対し、中国は技術の自立自強を図り、ボトルネックとなっている技術分野や新興技術の開発を加速させている。EV、AI、人型ロボットなど「新質生産力」を代表する新興産業は急速に成長しており、例えば、2025 年の中国産 EV およびプラグインハイブリッド車の輸出台数は前年比 86.2%増を記録した。「新質生産力」の強靭性は、こうした数字にも表れている。

米国の対中規制が、中国国内の独自技術開発を促進している側面もある。さらに、米国の移民・ビザ政策の厳格化は、中国出身の研究者にとっての帰国「プッシュ要因」となり、中国への人材回帰を促す結果となった。

ただし、「新質生産力」は諸課題にも直面している。例えば、EV 産業における企業の過度な競争や過剰生産問題は深刻である。AI や人型ロボット産業においても、今後同様の問題に直面するリスクが懸念される。